

新潟県見附市 スマートウェルネスみつけ(都市の将来像)

～住んでいるだけで健康で幸せになれるまち～

身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を「健幸（けんこう）＝ウェルネス」と呼び、まちづくりの中核に据えて行こうという考えです。

具体的には、歩くことを基本としそこに住んでいるだけで自然と健康になれるようなハード整備や仕組みづくりなどおすすめ。「日本一健康なまち」を目指すものです。

平成 27 年 3 月には地方創生のモデル事業として、見附市の超高齢化・人口減少社会を克服するスマートウェルネス都市の地域再生計画が認定されました。

現在地域が直面する。超高齢化を克服するためのモデルとして、事業を進めているところです。

【特徴的な市の事業会「ネウボラみつけ」の開設】

人口が減少しても持続できる町を目指すため策定した「見附市人口ビジョン」では年間出生数 300 人を維持することを目標とし、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援や環境整備に取り組むこととしています。

ネウボラとはフィンランド語で（助言する場所。）を意味し、フィンランドで 1920 年頃に始まった子育て支援拠点のことです。

妊娠中から育児期まで継続して相談できる場所となっています。

①妊娠期や産後の早い時期のサポート （心身の状態が不安定で育児ストレスが

強い時期)

②発達の気になる子供の早期支援（子供の発達を切れ目なく見守り障害を早期発見）も二つの取り組みを合わせて実施し、一元化させることでより身近な場で妊娠期から育児までの切れ目のない包括的な支援をワンストップで展開するのが「ネウボラ みつけ」の特徴です。

### 【主な質疑】

問 平成 14 年に健康運動教室が開始され、17 年にグランドデザインが策定され、久須美市長との就任の関係とはどのような流れになっているのか。

答 14 年 10 月に当選して、合併するかどうするかの話があったわけですが、16 年に水害や地震があって、自立して地域コミュニティを大切にグランドデザインも人口減少対策に 50 年後を見据えて民間の感覚で 10 年の総合計画を作る前に組織改革を地道に行ってまちづくりをして行こう。

問 企画調整課のご苦労した点があれば、お話下さい。

答 企画調整課のなかに戦略室があったわけですが、最初は縦割りの考えがあって大変でしたが、今は所管する担当課に課長補佐が 5 人いまして、その中で動いている次第です。

見附市では財政部門も企画調整課の中にありますので振り分けておこなっています。

問 ネーブルみつけの中で健康運動教室の前で沢山のお年寄りが囲碁を楽しんでいましたが、教える方・先生はいるのか。

答 先生はいませんが、みんな自主的に参加されていて・月、水、金とか火、木、土

とかで将棋・囲碁にわかれているようです。

問 新潟県の健康寿命はたかいのか。

答 健康寿命は長くなりました。みつけにおいて、最近では老衰で亡くなる方が多くなっているようです。

問 新潟県の方がよく働くと聞いていますが、働くところが多いのか。

答 働くところではなく所得が低いので、お年寄りの方も働いているし、それが逆にいいのかもと思います。

問 健康ポイントが進められていますがミドル世代が課題という風に聞いていますがどの様な点が課題なのか。

答 若い人が実感として、健康を捉えていない事が一番の問題だと思います。60歳以上になると自分の体を気遣う人が多くなる

### 【まとめ】

新潟県見附市はスマートウェルネスみつけの実現に向けて取り組んで行く中で以前スーパーが撤退した後の施設にまちづくり課を設置して「ネーブルみつけ」を中心とした、中心市街地を中核とした賑わいづくりに取り組んでいます。

ネーブルみつけには高齢者が自発的に囲碁・将棋・ジムに出かけ、喫茶コーナーではくつろぐ人が多くみられました。

また雪国の特性を生かしたサイクリングコースや市内各所に健幸ベンチ・健幸遊具を設置し、毎週水曜日には(4月~11月)ナイトウォーキングを開催して健康づくりに取り組んでいる。

過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備を行い、コミュニティバスは

100 円で 6 台を市中心から運行して将来は 10 台にするよう取り組んでいる。(H20 年 60313 が H29 年 161458 人)

日置市に取り組むとしたら旧 4 町を小さな町として見て、その町あった地域コミュニティ組織を作りランドデザインをして入れたらと思う、今わが市も健康づくりの推進に取り組む中で医療に頼らない健康づくりにさらに進んで行き、お年寄りの集まる場所の確保する施設(旧 4 町の中)を目指していけたらと思います。